関口　武，1941：風の地方名の研究　その2　ヤマジ（ヤマゼ）とヤマセ，地理評，17，824-842.

関根勇八，1981：梅雨季の循環特性と1ヵ月予報，一カ月予報指針，気象庁，151-174.

---

## 世界の科学者へのアピール――「核の冬」の到来を防ごう

1983年と1984年を通じて，核戦争の脅威は人類史上最悪の状態にエスカレートした．核戦力は戦略核および戦術核あわせておよそ20,000メガトンにも達し，広島原爆百万発以上にも相当している．巡航ミサイル・トマホークを含む“改良された”核ミサイルその他の兵器が，大量に，ヨーロッパやアジア・太平洋に既に配備され，また今後も配備されようとしている．カール・セーガン教授ら指導的科学者たちの警告に反し，核軍備競争は宇宙空間にも拡大しつつある．核超大国間の国際関係は，過去20年間で最も危険な状況に陥っている．「原子科学者会報」の編集者が，表紙に掲げられている運命の時計の長針を1分進めて，核による破滅の日の3分前を指し示し，人類が破局の淵に立っていることを世界に警告したのは理由のあることである．

しかし，1983年は，また，多数の科学者が，この惑星を覆う危険性について警告し，政府が現在の深刻な事態を逆転させるための有効な手だてをとるよう要請する活動を発展させた年でもあった．アメリカの多くの大気物理学者や生物学者が，膨大な科学的研究の結果を提示し，核戦争の影響はこれまで認識されてきた以上に破滅的なものと考えられることを明らかにした．ソ連の気象学者のグループが独自の研究に基づいてこれらの結論を確認したことは，注目すべきことである．アメリカ科学アカデミーやアメリカ科学進歩協会に加え，アメリカ細胞生物学会やイタリア生物化学会といった数多くの科学者組織が，核軍縮にむけての決議を採択している．さらに，世界保健機構は，医学および公衆衛生学の視点から，核戦争が健康と保健サービスに与える影響についての科学的報告書を刊行し，核の惨禍は核戦争を防止することによってのみ避けうることを強く指摘している．こうした諸々の努力が，平和と軍縮をもとめる世界の諸運動を激励したことは疑いのないところである．

日本科学者会議第19回定期大会に出席したわれわれは，世界の科学者の同僚たちに，以下のことを熱烈に訴える．

――学会で軍縮をもとめる決議を採択し，また，個人の意見を論文や手紙を講義を通じて表明することによって，核戦争の防止と，核兵器の研究・開発・実験・生産・配備・貯蔵および使用の禁止にむけての科学者の活動を支持すること．

――広島・長崎への核攻撃や太平洋その他での核爆発実験の恐るべき結果のみならず，未来の核戦争によって起こりうべき悲劇についても人々に知らせること．

――学会やグループや個人から米ソ両国を含む核保有国の指導者に手紙を送り，核軍備競争をただちにやめ，包括的軍縮計画を準備する話し合いを始めるよう働きかけ，また，その他の国々の指導者に対しても，こうした目標にむけての努力を強めるよう働きかけること．

われわれはまた，核惨禍を経験した史上唯一の国日本のすべての科学者に対して，以下のことを訴える．

――核戦争防止にむけて世界の科学者と共同するあらゆる努力を払うこと．

――政府が，予定されている巡航ミサイル・トマホークの配備に抗議し，核兵器完全禁止にむけて努力するよう，学会として要請するよう訴えること．

われわれは，科学界における平和と軍縮にむけての活動を強める努力を最大限に追求する決意であることを，ここに表明する．

（1984年5月27日，東京
日本科学者会議第19回定期大会）